

# 青雲

～L・T29のあゆみ～

裏千家淡交会青年部 第29期  
リーダーシップ・トレーナー出向員研修  
第5回活動記録



おぼえがき  
1回目  
平成28年10月29日(土) 曇り

12:30 裏千家学園にて受付

13:00 開会式

13:10 総本部講義  
「裏千家と学校茶道」  
淡交会常任理事兼  
今日庵事務局長 野口耕一様

14:20 茶道研修会館にて  
ICI (International Chado  
Institute) 稽古見学  
デイスカッション

16:00 茶道資料館見学  
秋季特別展  
「私の一碗、六十五碗  
それぞれの想い」

16:30 京都シテイホテル チェックイン

18:00 懇親夕食会  
フオーチュンガーデンキョウト  
篠原宗山様、松尾様、中田様  
ご臨席

20:30 ホテル一階広間にて  
全体ミーティング

22:30 折紙講座  
呈茶委員会による呈茶  
テーマ「銀河鉄道の旅」  
茶銘「芭蕉の白」  
詰 芭蕉園  
菓子  
hickory 3 travelers製  
『抹茶』

◆「浮き星」は元は「明治屋」の「ゆかり」というお菓子です。後継者がおらず途切れそうなので、hickory 3 travelers) というクワイティブ集団がリニューアルさせたものです。



2日目  
10月30日(日) 晴

8:50 裏千家学園に集合

9:00 出向員同士で呈茶  
茶銘 鵬雲斎大宗匠御好「松柏」  
詰め 丸久小山園  
菓子 各自持ち寄り

9:40 講義「親子の仕え合いについて」  
講師: 山梨支部参与 篠原宗山様  
講師への質疑応答

11:00 代表者会議呈茶  
ミーティング  
総評  
総本部事務局長兼  
組織部部长  
長谷川義翁様

12:00 昼食・解散  
兜門前にて  
全体写真撮影  
御家元ご厚意により  
茶道資料館拝観可

抜け落ちが多々ございます  
お詫び申し上げます

今回も自主研修委員会の皆様にご感想を頂きました。ご協力ありがとうございました。



学んだこと

学校茶道の歴史をはじめ、今まであまり学ぶ機会がなかった学校茶道について学ぶことができた。

学校茶道と青年部が連携し、学校茶道から青年部で引き続きお茶に親しんでいただけるように、青年部が茶道の楽しさを伝えられるように、さらに創意工夫し学んでいく必要があると感じた。

ことばで「挨拶をしながら礼をする」ではなく、ことばで「挨拶をしてから礼をする行為」について改めて考えることができた。

「〇」という組織、その稽古や活動について触れることができ、初心を思い出し、楽しむ茶道を学ぶことができた。

青年茶人(LT)の義務は第一に先生になることであり、裏千家淡交会の特徴は、学校茶道(裏千家オリジナル)と海外への展開(外国人に対するお茶へのアプローチ)を最も大切にしていることを学んだ。

嬉しかったこと

ICJの方々から良い刺激を受け、各国の言葉や文化を、茶道の思いを聞いたこと。

〇の皆さまと交流させていただき皆さまのお茶を楽しむ心に、茶道には国境はないとあらためて感動した。

茶道資料館で貴重なお茶碗を拝見し勉強させていただく機会を頂戴したこと。

LT出向員同志、共同で作る、楽しみ、意味合いを感じる事ができたこと。

代表者会議での呈茶に向けて、各

チームそれぞれの取組を知ることができ、お互いの頑張りを感じたこと。

呈茶委員会のみなさんのお呈茶にゆとりと安らぎを感じる事ができ、心が温まったこと。

わからなくてよい。わからなければ、しらべればよい。そして、完璧でなくてもよいとお言葉を頂いたこと。

反省点

〇の皆さんとのディスカッションの際に、英語への苦手意識からなかなか質問ができなく、語学力の低さと事前の準備が不十分であったこと。

自分の事前の準備不足により、打合せで考えがまとまらなかったこと。

〇の方達の方が着物で参加されている方が多く、相手側の心境にあわせた準備ができなかったこと。

時間内の作業はできたものの、次の準備や事前の準備に関して積極的に早く行動すべきだったこと。

総本部からの納期だけではなく、LT出向員お互いの依頼された納期を厳守すること。

目の前の作業に集中のあまり、周囲への配慮が欠けていたこと。

次回の課題

茶席において客層も考え、語学も日々学んでゆく。

全国代表者会議の呈茶席で、29期全員が心を一つにして大切なお客

様お一人お一人を心からの感謝を込めて迎える。

LT出向員としての一年を総括する3日間スピーチの練習をしつかりと行い、当日に備える。

LT研修修了はゴールではないが、ひとつの区切りとして達成感を持って終えることができるように取り組む。

最終研修に向けて、悔いが残らないように何事も全力で努める。

同期のみんなと集う最後の研修、私達を快く送り出してください。ブロック・青年部の皆さんへの呈茶感謝の気持ちをしっかりと伝えることができるよう取り組む。

その他

皆さまと呈茶席についてたくさんのお話ができ、とても有意義



だった。

現役LTとして最後まで全力で取り組む、悔いのないよう燃え尽きた。

学校茶道、現在の学校茶道の風景・活動、学生さん達が学校の中でどのように茶道を学んでいるか等に興味を持った。

青年部と学校茶道の連携の大切さ以外にも、お茶を教えるひとつのヒントの形として学校茶道に関わり稽古、勉強に励みたい。

〇での海外の方がどのように茶道に出会い、学ぶようになったのかや日々の稽古の様子などのお話はとても興味深かった。

6分の5の研修が終わったが、34名から学ぶことはとても大きく感謝している。

広報庶務委員長  
ご挨拶

皆様お世話になっております。東京第一東青年部の寺田和典でございます。早いもので、今号で青雲は五回目の発行となりました。

広報庶務委員会では、研修を振り返ると共に、一人一人の学びを共有化し、研修での学びをより深める目的で、広報庶務委員会にて広報誌「青雲」を作成させて頂いております。今改めて過去の青雲を読み返すと、昔の研修も最近の事のように思い出すと共に、自分とは違ういろいろな方の気づきがあり、自分の中の視野が広がったように思います。皆様にはアンケートに御協力頂きまして、ありがとうございます。また、青雲発行に当たっては、広報庶務委員会の皆様にご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

最初、広報誌の発行するにあたり、どのような形で発行できるの不安でした。しかし、どんな内容を記載するのかメンバーと話し合い、それぞれの特技を活かしながらお互いに協力する事で想像以上の形で発行できました。一人ではここまで事はできませんが、いろいろなバックグラウンドを持ったメンバーが協同して同じ方向を目指したからこそ、相乗効果が生まれ、できたのだと思います。これは、青雲に限らず、研修での各チーム活動でも言えます。青年部活動においてもあると思います。

残すところあと二回の研修となりましたが、出会えた縁に感謝しつつ、少しでも多くの事を皆さんと一緒に学びたいと思います。そして、このLT研修で学んだ事を地元青年部に持ち帰り、今後の青年部活動に活かしていきたいと思っております。

第29期LT出向員  
広報庶務委員長  
東京第一東青年部  
寺田 和典

編集後記

第5回研修は、学校茶道と海外展開という裏千家の二つの軸への理解を深め、代表者会議の呈茶へと準備を進める学びとなりました。出向員全員で力を合わせ呈茶席を作っていく中、様々な困難にも遭遇していき、様々な学びもあり、経験だと感じます。この場を下さる、見守って下さる方々へ感謝の心が伝わるよう、全力を尽くしたいと思っております。

広報誌作成担当  
山梨県青年部 古屋珠美